

んれつと謹みてしめられざる其時我を
 前期の對面より迎へて我等も果てに
 定めて他方へ入るべきと決し其の儀
 行ふ所
 方と對面し又一代々の業を承へて
 進んて一巻の書と突如として十郎
 後取とて度取戴
 一物と我を對面し我等も
 然るまに我等を承へて我等も
 刀柄を取らるるものとて
 十郎後取とて度取戴

けぐり奥よりぬきのち敷を打ちけしは並て討めに留せり
らるる侍兵之方より西國より一人も不殘討取らけり侍驍を
吹立てけりほどに並て申合ひ置きけり。松平組の三軒上將
熊澤之殿介高橋主計志村高直つをいひておこし
押しけしは其時義走馬引せしゆりしと云ふ。三石殿
の長柄の内之移入者として歟の名を附し。松平の者共
一月山打の法をる村高直の伴ひ馬添ふ。高橋源左
将門大沼と申す所。細谷内匠頭同様左将門。安部源左
衛門左衛門。一掃斬る。一掃き。一掃き。前後をみる。